

# 会 議 録

件 名：第 1 回九重町総合計画審議会

日 時：令和 4 年 9 月 2 0 日（火） 9：3 0～1 2：0 0

場 所：九重町役場庁議室

出席者：1 1 名中 1 0 名出席

小田委員、渡邊委員、手島委員、今吉委員、田吹委員、佐藤委員、相沢委員

山口委員、高木委員、野尻委員

発言者	内容
	<b>1. 開会</b>
	<b>2. 委嘱状交付</b>
	<b>3. 町長あいさつ</b>
	台風 14 号では大きな被害もなく安堵している。消防団にも協力に感謝する。本町においては、人口減少に加え新型コロナウイルス感染症により、経済が低迷している。総合計画の下位に位置づけられる総合戦略を中心に審議いただきたい。また、計画は、策定後の検証が重要である。本日は、建設的な意見を承りたい。
	<b>4. 審議会委員及び事務局紹介</b>
	<b>5. 会長・副会長選出</b>
	会長（野尻）、副会長（佐藤）承認
	<b>6. 議事</b>
	（1）九重町総合計画審議会の運営方法について
	（意見なし）
	（2）九重町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
	（第 2 期九重町まち・ひと・しごと創生総合戦略について概要説明）
	《基本目標 I に関連する事業（No. 1-9）》
	【No.1】地域農業サポート組織の設立について
委 員	（サポート組織の取組状況について報告） 農業者にアンケートをとった結果、高齢化により畦畔の草刈り対応が年々厳しくなっており、耕作放棄地対策も含めて今後の課題である。また、サポート組織の事務局をどこが担うのかという問題が進んでおらず、中山間地域直接支払の事務代行に留まっている。更に、草刈りについて、消防団にその一翼を担っていただけないか話を行っている。
委 員	農業施策について、これまでも各種補助金を活用した振興策を凶ってきたが、いずれも生産面のみに留まっており、販路開拓など売り先を考えたものができなかったため、儲かる農業が実現していない。行政にも販売先を開拓するような働きかけをお願いしたい。
事 務 局	これまで農協共販を基本としてきたが、J A の合併に伴い変化はあるか。

委員	市場については、価格決定が市場側にあり、生産者は弱い立場にある。ネット販売等が普及しているものの、高齢者にはハードルが高い。JAについては、以前に比べ、生産農家との間に距離がある。農業は稼げるといったスタイルを示していきたい。
事務局	外部人材の活用になるが、畜産ヘルパーについて情報提供を求める。
委員	(本年度から活用している地域おこし協力隊について、説明)
	<b>【No.8】奨学金返還支援事業について</b>
委員	奨学金返還支援事業については、九重町の出身者に限定したものなのか？この制度を改正して、転入者の増加に向けた移住施策の一環として行うことはできないのか
事務局	現在の制度からいうと、玖珠郡育英会の借入を行った方が対象となるため、町内者限定の支援制度となる。
委員	耕作放棄地位対策については、大きな問題になり得ると認識している。先の消防団への草刈りの話になるが、各消防団の個別対応となるが、現実的には難しいのではないかと考える。また、農業振興の話になるが昔、大山町が「梅栗植えてハワイに行こう！」というキャッチフレーズのもと行っていたように、儲かる農業を示す意味でも、目標（ゴール）設定が必要と考える。
	<b>＜基本目標Ⅱに関連する事業（No.10-18）＞</b>
	<b>【No.14】2次交通対策整備事業について</b>
委員	豊後中村駅については、茅葺屋根の駅舎として非常に価値があり、写真撮影する観光客も多くいる。2次交通対策として、単なるバスを走らすのではなく、車内において、音声による観光情報の放送等についても検討してはどうか？
事務局	担当課（商工観光・自然環境課）に伝え、検討を行う。
委員	豊後中村駅については、改修当時は、食堂もあり賑わいを見せていたが、現在は低迷している。茅葺屋根の駅舎として希少価値はるので、看板等を設置して、もう少しPRをすべきではないか。
委員	私も同様の意見である。210号線に看板を設置してはどうか？外に向けての発信力が弱いと思う。
委員	町内には、4つの駅があり、それぞれに特色がある。それらをもっとPRすべきである。
委員	観光業については、コロナ禍により、観光客は減少している。現在の流行りとしては、平屋であり離れがあるようなこじんまりした施設が人気を博している。また、やまなみハイウェイについては、観光道路としての位置づけであったが、道路沿線の樹木が景観を損ねており、環境整備をお願いしたい。
委員	<b>【No.17】移住者コミュニティ組織設立事業について</b>
委員	移住者コミュニティ組織について、必要性に疑問がある。既に、移住者同士はSNS等で繋がっており、改めて組織を設立する必要があるのか？

事務局	移住者コミュニティについては、移住者のみの組織ではなく、移住者と地元住民とで構成するものをイメージしている。昨年度、移住者を対象としたアンケート調査を行ったが、組織設立を要望する声もいただいている。
委員	関連して、移住者向けのホームページ「ココクラ」についても情報発信が不足しているので、充実を願う。
事務局	移住・定住に関わらず、町としてコマースが不足しているというご意見は様々な場面で頂いているので、各課に伝え、情報発信に努めていきたい。
	<b>【No.10】 スポーツツーリズム推進事業について</b>
事務局	スポーツツーリズムについて、町としてもラグビーや陸上について、合宿誘致を推進している。また、サイクリングの国際的な大会も検討されているが、観光面での考えを伺いたい。
委員	駅伝の実業団については、大幅に減少している。本年度においては、北海道で合宿を行っている。また、クロスカントリーについては、コースが荒れており整備が必要な状況にある。しかし、かなり費用も発生することから、観光協会としては、維持管理が困難となりつつある。
	<b>〈基本目標Ⅲに関連する事業 (No. 19-30) 〉</b>
	<b>【No.19】 婚活支援事業について</b>
委員	最近の結婚活動においては、アプリ等による出会いが増えている傾向にある。是非、検討してみてもどうか。
事務局	(ブライダルアドバイザーの取組を紹介)
	アプリ等の活用についても、アドバイザーを中心に検討していく。
	<b>【No.29】 英語検定支援受検促進事業について</b>
委員	英語検定に関しては、ケーブルテレビを活用した学習番組を編成してはどうか？このことは、ケーブルテレビの放送運営委員会でも提案している。
事務局	担当課(危機管理情報推進課)に伝え、検討を行う。
委員	実績の27.7%は、どのような計算によるものか。
事務局	中学3年生全体に占める3級の合格者である。分母は、受検者ではない。
委員	全体に占める資格取得者数であれば、決して低い数値ではないのでは。また、次世代を担う若者を育てていく意味で、教育は非常に重要である。子どもたちをいかに町外に流出しないかということは、町の死活問題であり、郷土愛を醸成する取組が大切である。また、修学旅行について、県外に行くのではなく、九重町に誘致するといったことも推進していくべきである。 また、話が前後するが、インバウンド誘致については、否定的に考えている。やはり、海外情勢等に影響を受けないよう、国内旅行に目を向けていくべきと考える。
委員	(「ここのえ学園基本計画」に基づき、ここのえ学の取組を紹介)
	<b>〈基本目標Ⅳに関連する事業 (No. 31-41) 〉</b>
	<b>【No.40】 多世代交流支援事業について</b>

委員	(飯田地区における地域ふれあい食堂の取組を紹介)
委員	(社会福祉協議会における地域共生の取組を紹介)
委員	(防災士会の取組を紹介)
	《全体を通して》
事務局	人口減少カーブを緩やかにするという意味では、自然増は出生・死亡ということで、行政施策でなかなか効果が発揮しにくい部分である。必然的に社会増に向けた施策に取り組む必要があるが、皆さま方からご意見を承りたい。
委員	3世代同居が望ましいと考えるが、時代の流れで親と世帯を分けて生活するのが当然となっており、アパートが多く、生活に便利な玖珠町に人が流れている。そのため、住環境の整備が急務ではないかと考える。
委員	子育て環境の整備という面において、放課後児童クラブ整備が進んでいるが、長期休暇中の昼食について、毎日弁当を持って行っているが、この点について何らかの支援があるとありがたい。また、子どもの集う場の整備についても長期的なビジョンとなるが、未来への投資という面で整備をお願いしたい。
委員	子どもたちが町外に出ていく理由としては、決して都会に魅力があるのではなく、地元の魅力がないからである。よって、まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた事業について、全体的に最適化するため、1つ1つの事業を着実に進めて行くしかない。また、繰り返しになるが、学校教育も必要である。現在は、小中学校において郷土愛を醸成するようなプログラムが展開されているようであるが、未来への投資は非常に大切である。
	<b>(3) 九重町第5次総合計画について</b>
	(ダイジェスト版により概要説明し、今後の進捗管理を依頼)
	<b>(4) その他(新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業 外)</b>
	(資料に基づき、現在の取組を紹介)
	<b>7. 閉会</b>